

社会的活動におけるダイバーシティと持続性に関する調査

—活動の中心メンバーの性別や年齢が偏っている場合、活動の持続性に懸念を抱いている人が多い—

大正大学地域構想研究所は、社会的活動^(注)における中心メンバーのダイバーシティの状況と活動の持続性の関係を把握するため、インターネット調査を実施しました。その結果、社会的活動の中心となっているメンバーの性別や年齢が偏っている場合、その活動の持続性に懸念を抱いている人が多いこと、社会的活動の中心メンバーに外国人がいる場合の方が、活動の持続性に安心感が持っている人が多いこと等が明らかになりました。社会的活動におけるダイバーシティを高めることが、その持続性の向上につながり、ひいては地域における支え合いの強化や地域の活性化をもたらすと考えます。

大正大学地域構想研究所では、地域と連携し、地域におけるソーシャル・ネットワークの活性化や地方移住促進に関する取り組みや研究を進め、地域の活力の向上や持続可能な地域社会の構築に貢献できるよう努力しています。

(注)本調査で対象とした社会的な活動は、「自治会、町内会などの地縁的活動」、「ボランティア・NPO・市民活動」の2つである。

【調査結果概要】

1 活動における多様性について

- 参加している自治会、町内会などの地縁的活動の中心となっているメンバーにおいて、女性、65歳以上の高齢者それぞれの割合を聞いたところ、男女ほぼ半数の場合が最も多いこと、高齢者の割合が60%より多い場合が約4割となっていることがわかった。参加している自治会、町内会などの地縁的活動の中心となっているメンバーに外国人がいるかどうかを聞いたところ、外国人がいない場合が約9割と大半を占めた。
- 参加しているボランティア・NPO・市民活動の中心となっているメンバーにおいて、女性、65歳以上の高齢者それぞれの割合を聞いたところ、男女ほぼ半数の場合が最も多いこと、高齢者の割合は0%から80%まで4つに分けた割合区分全てで約2割となり、突出して多い割合区分はないことがわかった。参加しているボランティア・NPO・市民活動の中心となっているメンバーに外国人がいるかどうかを聞いたところ、外国人がいない場合が約9割と大半を占めた。

2 活動における多様性と活動の持続性について

- 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーの全員或いは 8 割以上が女性の場合や中心メンバーに女性がいない場合に、活動の持続性に懸念を抱いている人が多い。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーの全員或いは 8 割以上が高齢者の場合や中心メンバーに高齢者がいない場合に、活動の持続性に懸念を抱いている人が多い。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーに外国人がいる場合の方が、活動の持続性に安心感を持っている人が多い。
- ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに女性がいない場合に活動の持続性に懸念を抱いている人が最も多い。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに高齢者がいない場合に活動の持続性に懸念を抱いている人が最も多い。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに外国人がいる場合の方が、活動の持続性に安心感を持っている人が多い。

【調査概要】

- ・調査目的:社会的活動における中心メンバーのダイバーシティの状況と活動の持続性の関係を把握すること
- ・調査対象:「自治会、町内会などの地縁的活動」、「ボランティア・NPO・市民活動」のいずれか、或いは両方に参加している、全国に住んでいる 20 代以上
- ・回収サンプル数:1046 人(男性 526 人、女性 526 人)
- ・調査時期:2024 年 12 月
- ・調査方法:インターネット調査(NTT コムオンライン・マーケティング・ソリューション(株)委託)

【本調査についての照会先】

大正大学地域構想研究所地域の支え手プロジェクト事務局
塚崎裕子・山本恭久
(電話) 03(5944)5482
(ファックス) 03(5394)3055

【調査結果】

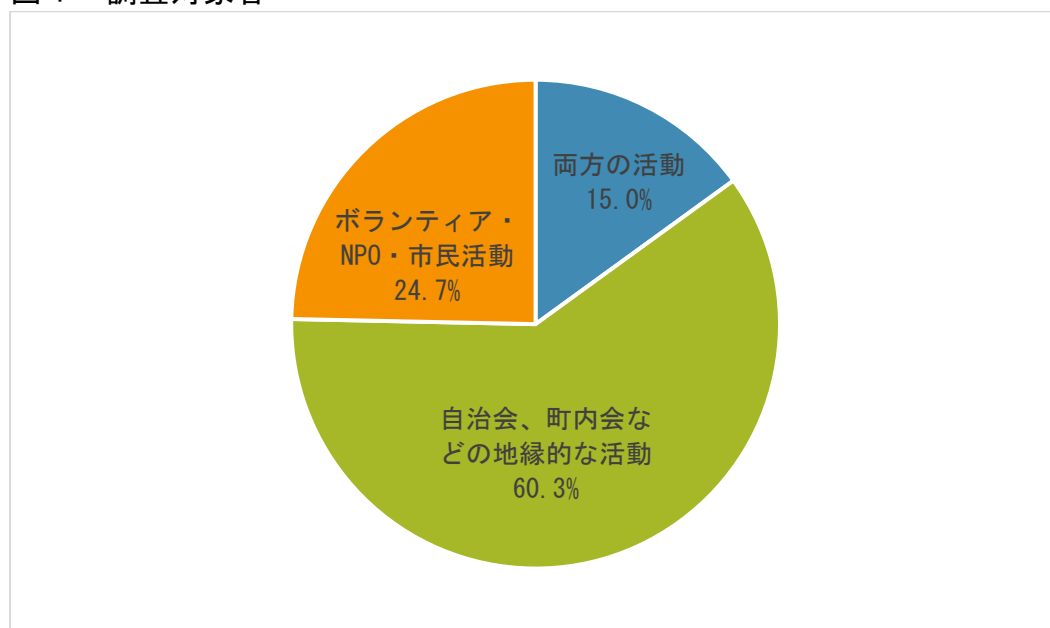
1. 調査対象者

本調査の対象者は、次の活動のいずれか、或いは両方に参加している、全国に住んでいる 20 代以上とした。

- ・自治会、町内会などの地縁的活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会、消防団など）
- ・ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障害者福祉、子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）

「自治会、町内会などの地縁的活動」と「ボランティア・NPO・市民活動」の両方の活動を行っている人の割合は 15.0%、「自治会、町内会などの地縁的活動」のみを行っている人の割合は 60.3%、「ボランティア・NPO・市民活動」のみを行っている人の割合は 24.7%であった（図 1）。

図 1 調査対象者

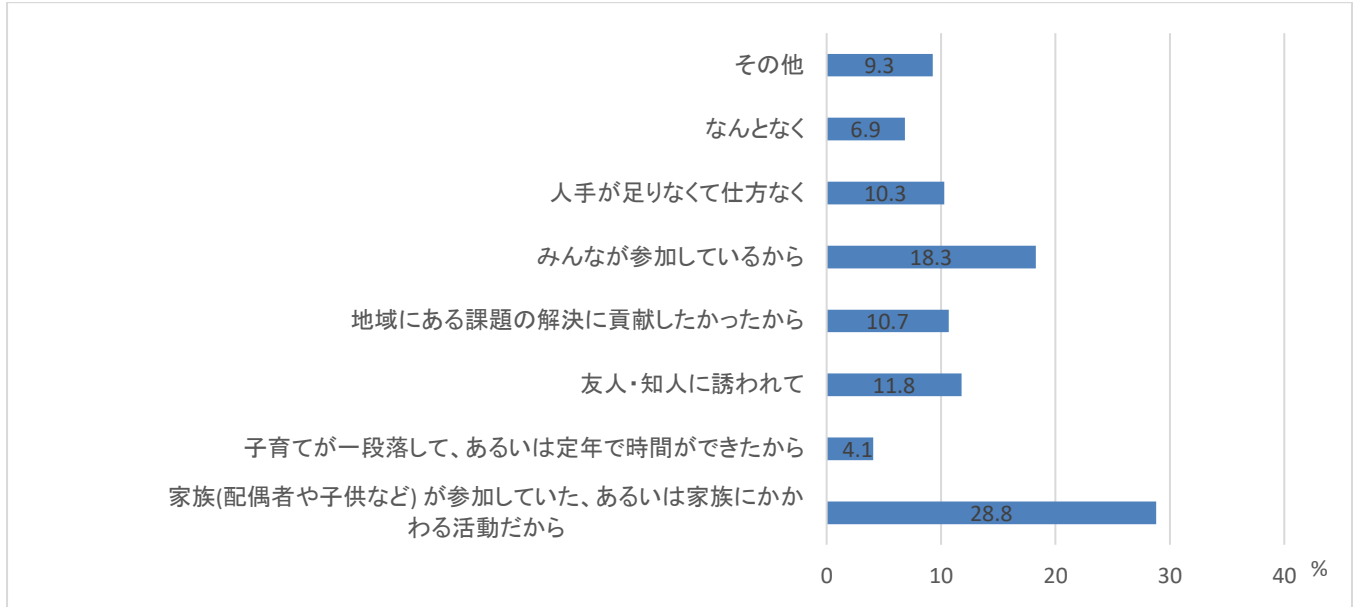


2. 自治会、町内会などの地縁的活動

(1) 自治会、町内会などの地縁的活動に参加したきっかけ、参加頻度

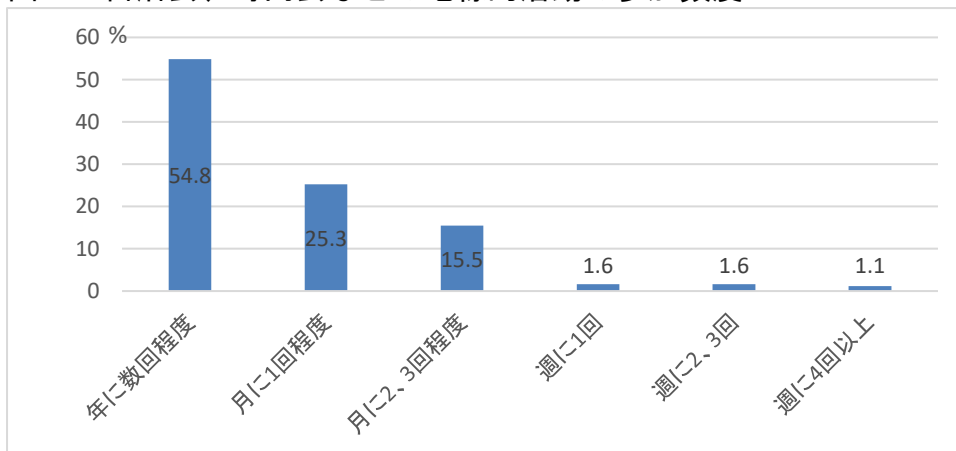
自治会、町内会などの地縁的活動に参加したきっかけとして、最も当てはまるものを1つだけ選んでもらったところ、「家族（配偶者や子供など）が参加していた、或いは家族にかかわる活動だから」（28.8%）が最も多かった。次いで、「みんなが参加しているから」（18.3%）、「友人・知人に誘われて」（11.8%）、「地域にある課題の解決に貢献したかったから」（10.7%）が続いた。なお、複数の活動に参加している場合は、最も頻度が多かった活動について回答を求めた（以下の設問において同じ）（図2）。

図2 自治会、町内会などの地縁的活動に参加したきっかけ



自治会、町内会などの地縁的活動に参加している頻度は、「年に数回程度」が54.8%、「月に1回程度」（25.3%）、「月に2、3回程度」（15.5%）の順で多くなっている。月に1回程度以下の参加頻度が約8割を占めている（図3）。

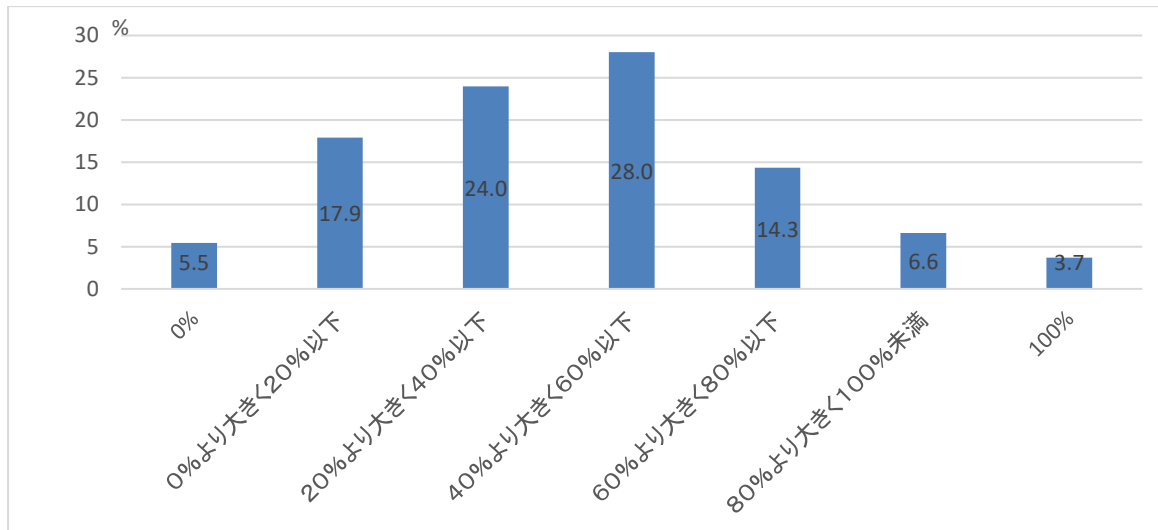
図3 自治会、町内会などの地縁的活動の参加頻度



(2) 自治会、町内会などの地縁的活動におけるダイバーシティ

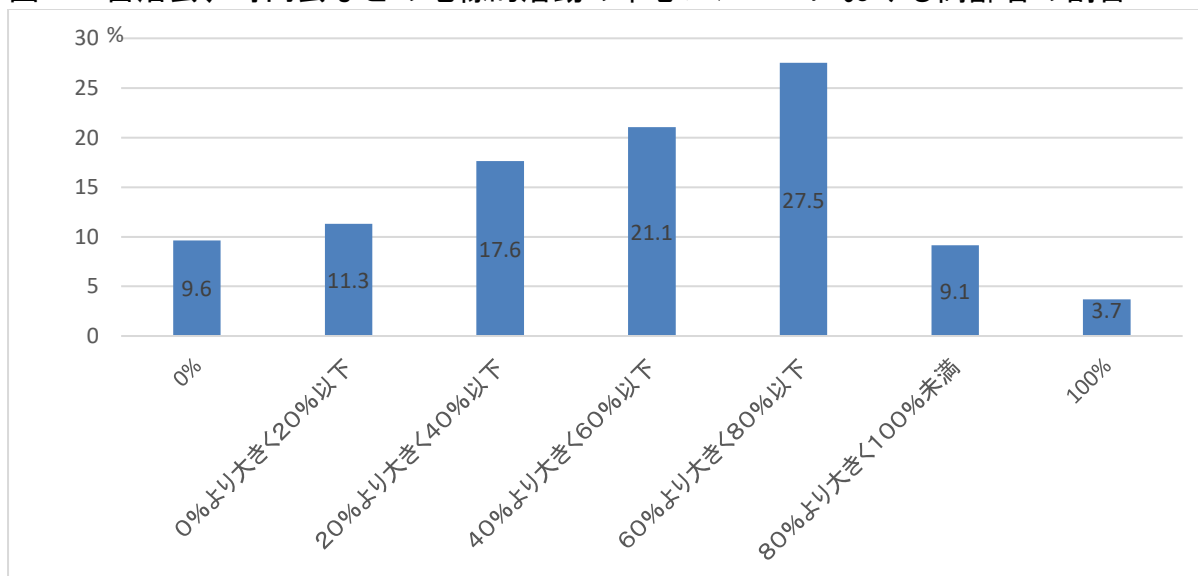
参加している自治会、町内会などの地縁的活動の中心となっているメンバーにおける女性の割合を聞いたところ、「40%より大きく 60%以下」が最も多く 28.0%であった。次いで、「20%より大きく 40%以下」(24.0%)、「0%より大きく 20%以下」(17.9%)が続いた。男女ほぼ半数の場合が最も多い(図4)。

図4 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける女性の割合



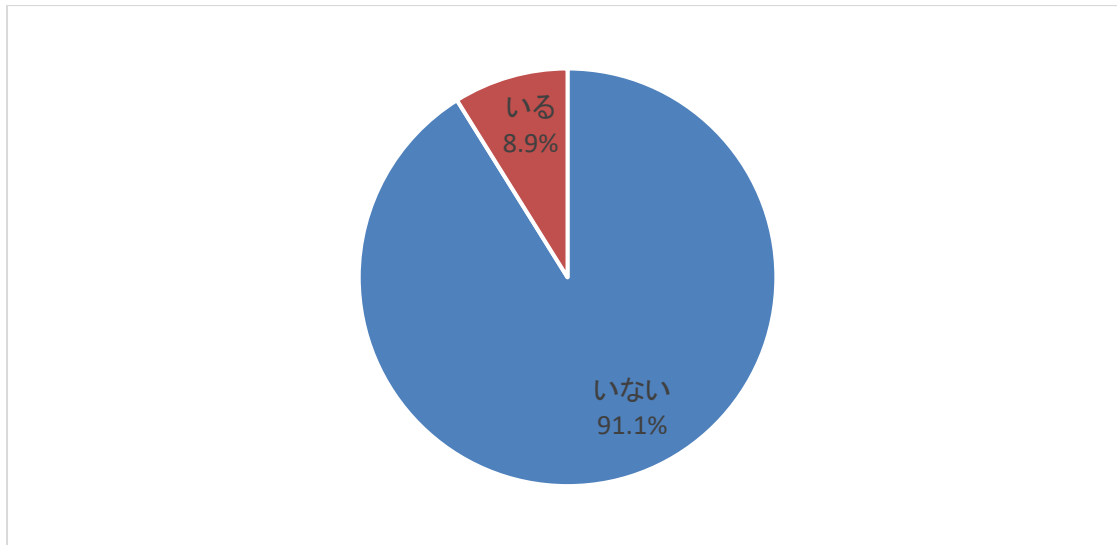
参加している自治会、町内会などの地縁的活動の中心となっているメンバーにおける65歳以上の高齢者の割合を聞いたところ、「60%より大きく 80%以下」が最も多く 27.5%であった。次いで、「40%より大きく 60%以下」(21.1%)、「20%より大きく 40%以下」(17.6%)が続いた。6割以上が高齢者の場合が約4割となっている(図5)。

図5 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける高齢者の割合



参加している自治会、町内会などの地縁的活動の中心となっているメンバーに外国人はいるかどうか聞いたところ、「外国人がいない」が91.1%、「外国人がいる」が8.9%と「外国人がいない」が大半を占めた（図6）。外国人がいる場合の外国人の人数の平均は2.8人であった。

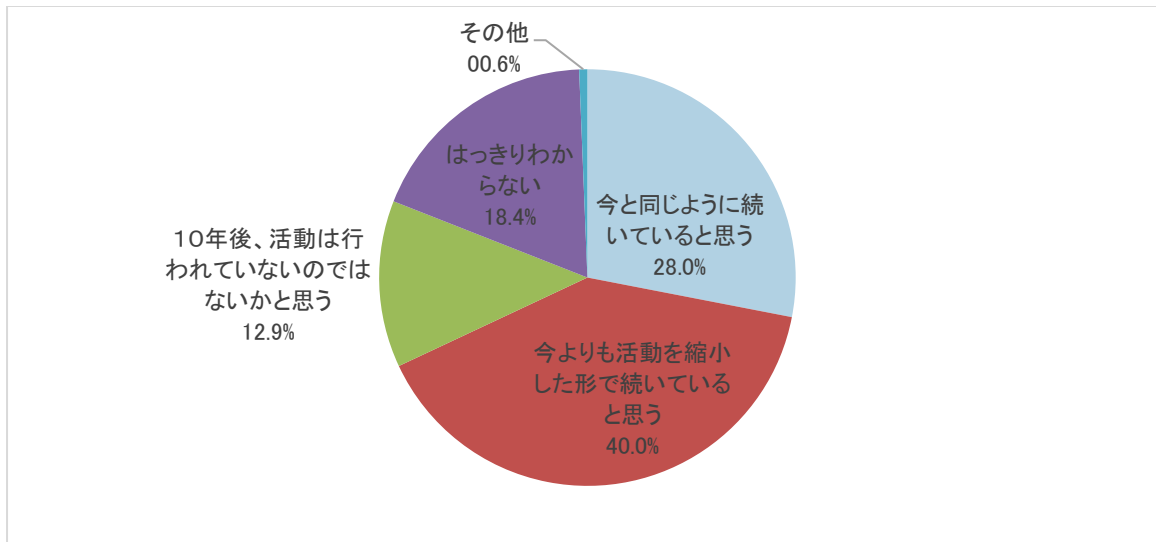
図6 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーに外国人はいるか



(3) 自治会、町内会などの地縁的活動の持続性とダイバーシティ

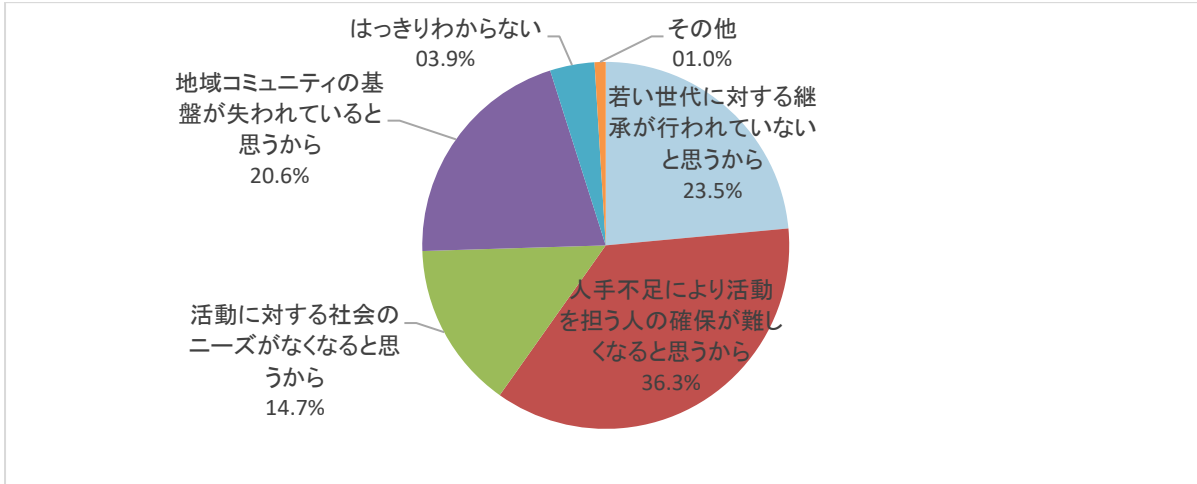
参加している自治会、町内会などの地縁的活動は10年後どのようなになっているかと思うか聞いたところ、「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」との回答が40.0%と最多を占めた。「今と同じように続いていると思う」（28.0%）、「はっきりわからない」（18.4%）、「10年後、活動は行われていないのではないかと思う」（12.9%）が続いた（図7）。

図7 自治会、町内会などの地縁的活動の10年後



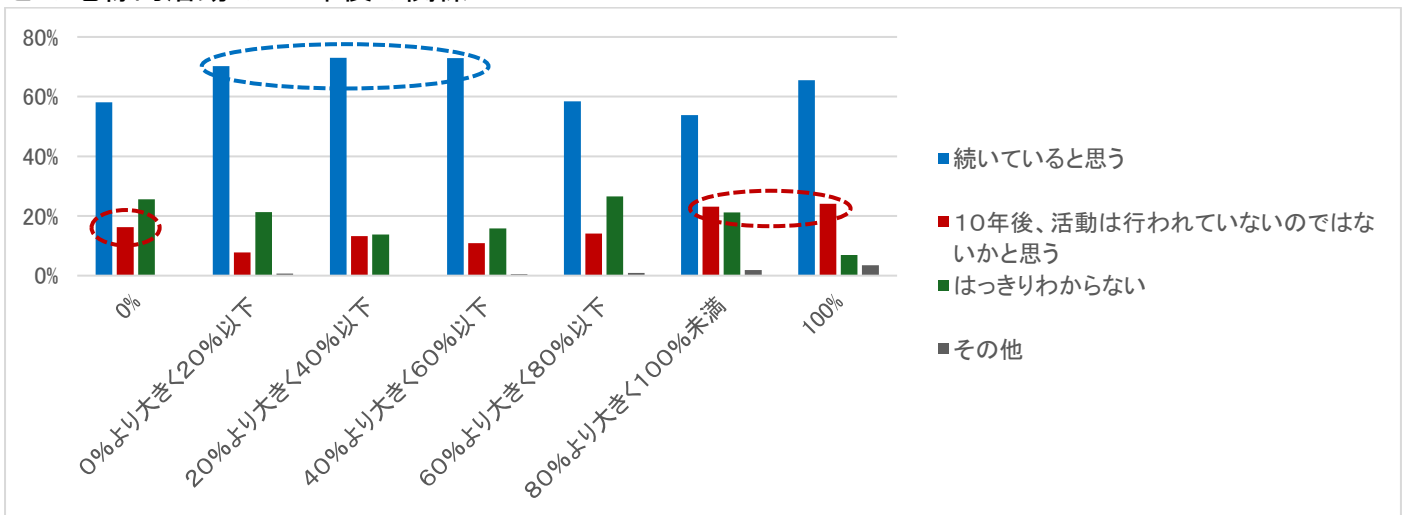
「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人にその理由として最も大きいと思うものを選んでもらったところ、「人手不足により活動を担う人の確保が難しくなると思うから」が36.3%と最も多かった。次いで「若い世代に対する継承が行われていないと思うから」(23.5%)、「地域コミュニティの基盤が失われていると思うから」(20.6%)、「活動に対する社会のニーズがなくなると思うから」(14.7%)が続いた(図8)。

図8 10年後、自治会、町内会などの地縁的活動は行われていないのではないかと思います理由



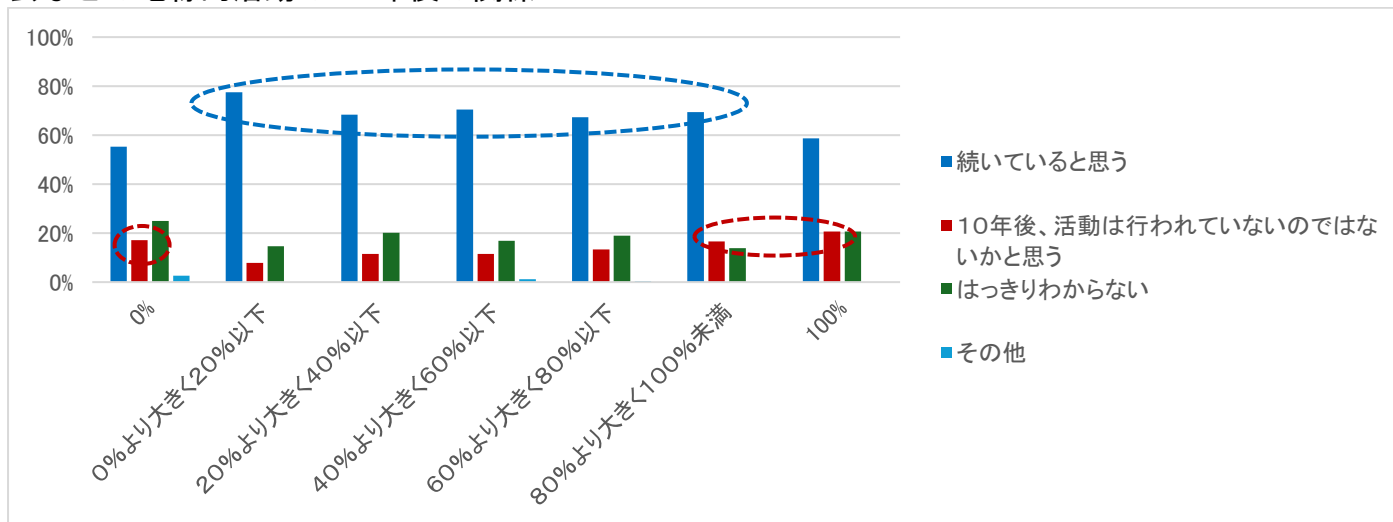
自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける女性の割合ごとに、「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、「100%」で24.1%と最も多く、次いで「80%より大きく100%未満」(23.1%)、「0%」(16.3%)が続いた。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける女性の割合ごとに、「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「20%より大きく40%以下」(73.0%)、「40%より大きく60%以下」(72.9%)、「0%より大きく20%以下」(70.2%)がいずれも約7割と多かった。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーの全員或いは8割以上が女性の場合や中心メンバーに女性がいない場合に、活動の持続性に懸念を抱いている人が多い(図9)。

図9 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける女性の割合と自治会、町内会などの地縁的活動の10年後の関係



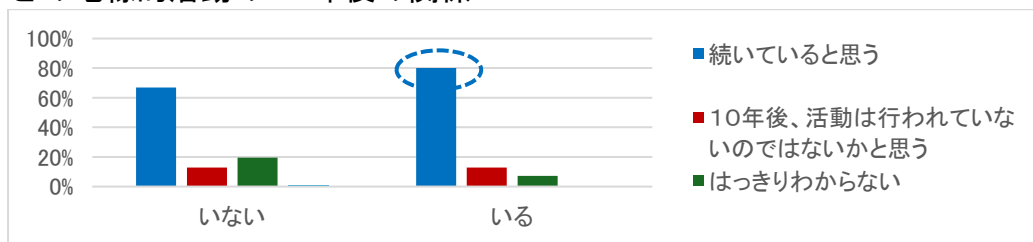
自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける高齢者の割合と「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、100%で20.7%と最も多く、次いで「0%」(17.1%)、「80%より大きく100%未満」(16.7%)が続いた。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける高齢者の割合ごとに、「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「0%より大きく20%以下」(77.5%)で最多で、次いで「40%より大きく60%以下」(70.5%)、「80%より大きく100%未満」(69.4%)、「20%より大きく40%以下」(68.3%)、「60%より大きく80%以下」(67.3%)と続き、0%と100%以外は約7割であった。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーの全員或いは8割以上が高齢者の場合や中心メンバーに高齢者がいない場合に、活動の持続性に懸念を抱いている人が多い(図10)。

図10 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける高齢者の割合と自治会、町内会などの地縁的活動の10年後の関係



自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける外国人の有無と「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、「外国人がいない」(13.0%)、「外国人がいる」(12.9%)とほぼ同じ割合であった。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける外国人の有無と「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「外国人がいる」が80.0%、「外国人がいない」が66.9%と外国人がいる方が多かった。自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーに外国人がいる場合の方が、活動の持続性に安心感を持っている人が多い(図11)。

図11 自治会、町内会などの地縁的活動の中心メンバーにおける外国人の有無と自治会、町内会などの地縁的活動の10年後の関係

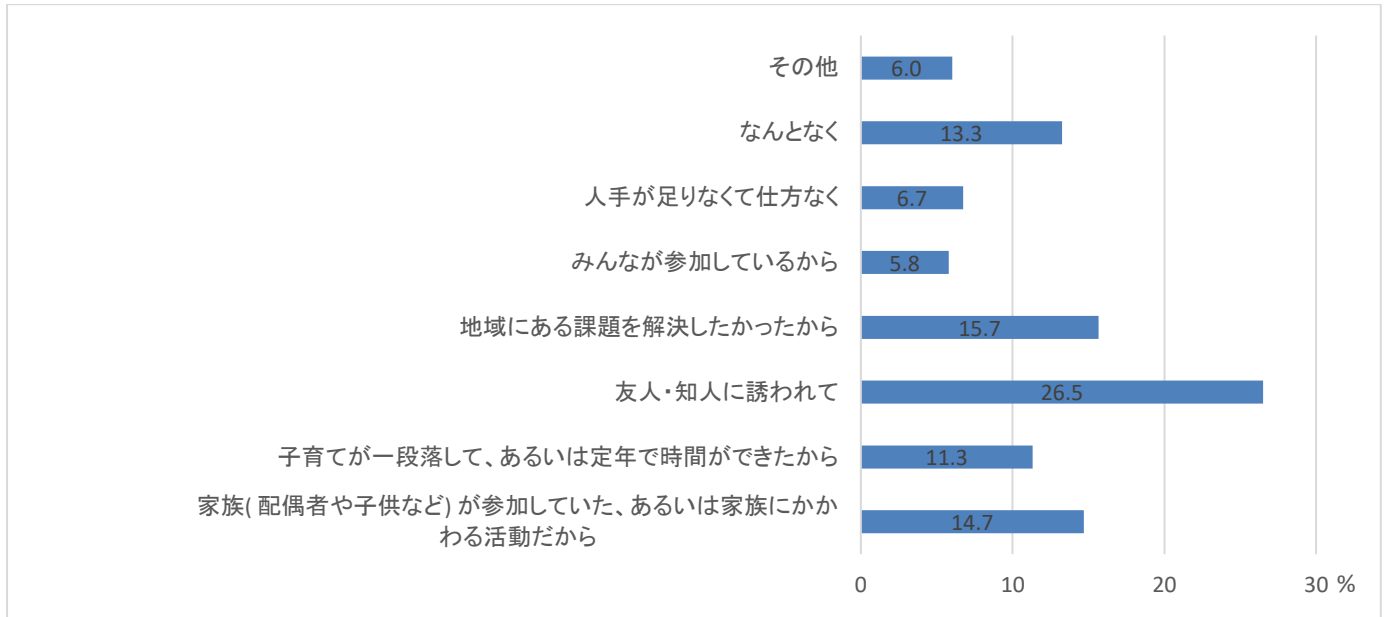


3. ボランティア・NPO・市民活動

(1) ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけ、活動地域、参加頻度

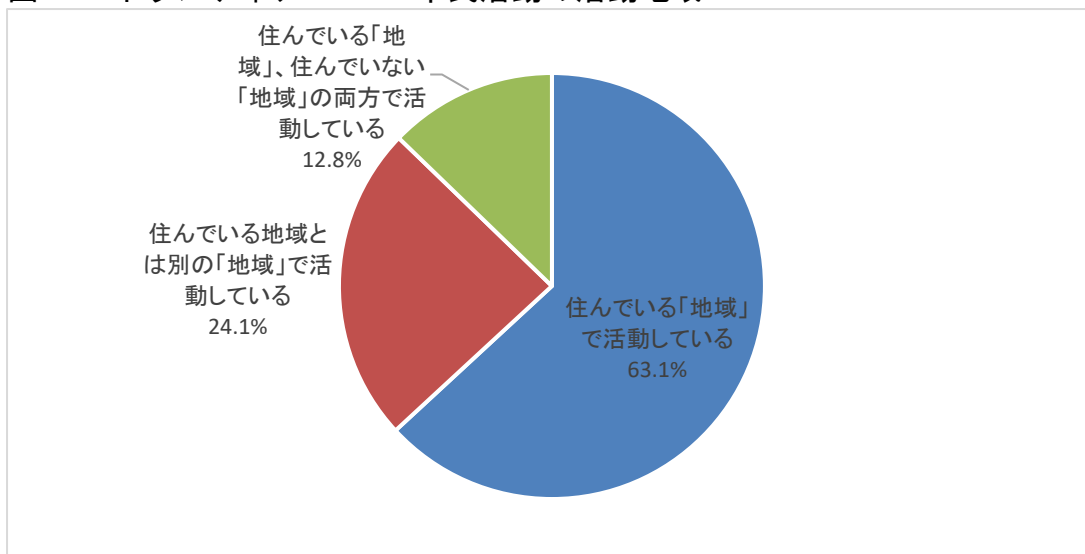
ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけとして、最も当てはまるものを1つだけ選んでもらったところ、「友人・知人に誘われて」(26.5%)が最も多く、次いで「地域にある課題の解決に貢献したかったから」(15.7%)、「家族(配偶者や子供など)が参加していた、或いは家族にかかわる活動だから」(14.7%)が多かった。なお、複数の活動に参加している場合は、最も頻度が多かった活動について回答を求めた(以下の設問において同じ)(図12)。

図12 ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけ



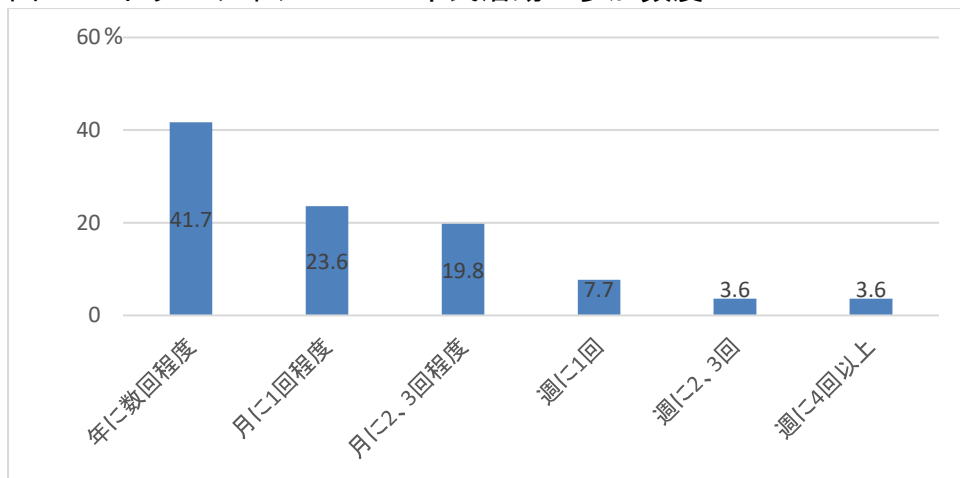
ボランティア・NPO・市民活動の活動地域について聞いたところ、「住んでいる『地域』で活動していた」(63.1%)が最多で、「住んでいる地域とは別の『地域』で活動していた」(24.1%)、「住んでいる『地域』、住んでいない『地域』の両方で活動していた」(12.8%)が続いた(図13)。

図13 ボランティア・NPO・市民活動の活動地域



ボランティア・NPO・市民活動に参加している頻度は、「年に数回程度」が最多で41.7%、次いで「月に1回程度」(23.6%)、「月に2、3回程度」(19.8%)が多かった。月に1回程度以下の参加頻度が6割以上を占めている(図14)。

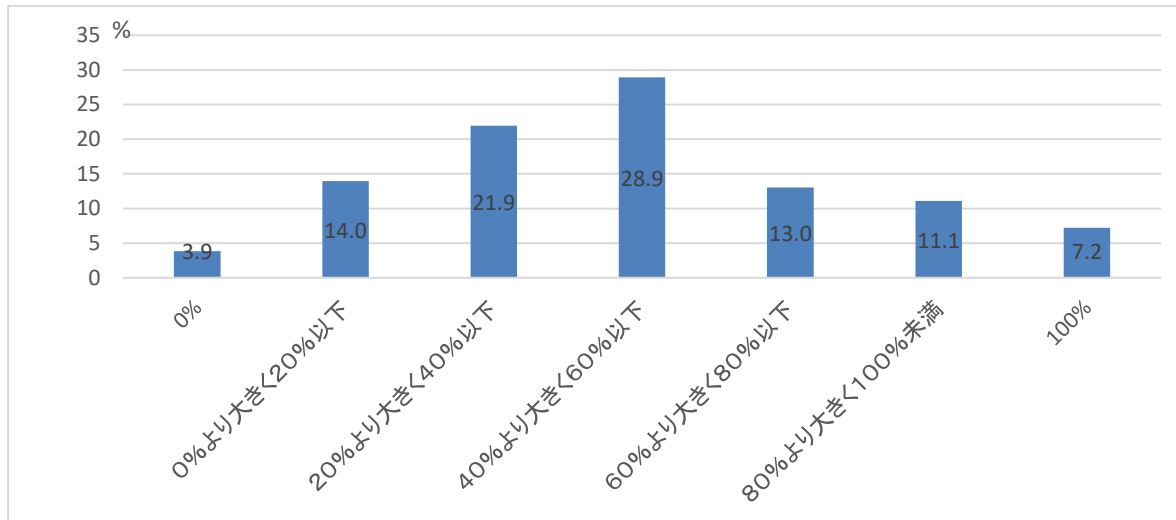
図14 ボランティア・NPO・市民活動の参加頻度



(2) ボランティア・NPO・市民活動のダイバーシティ

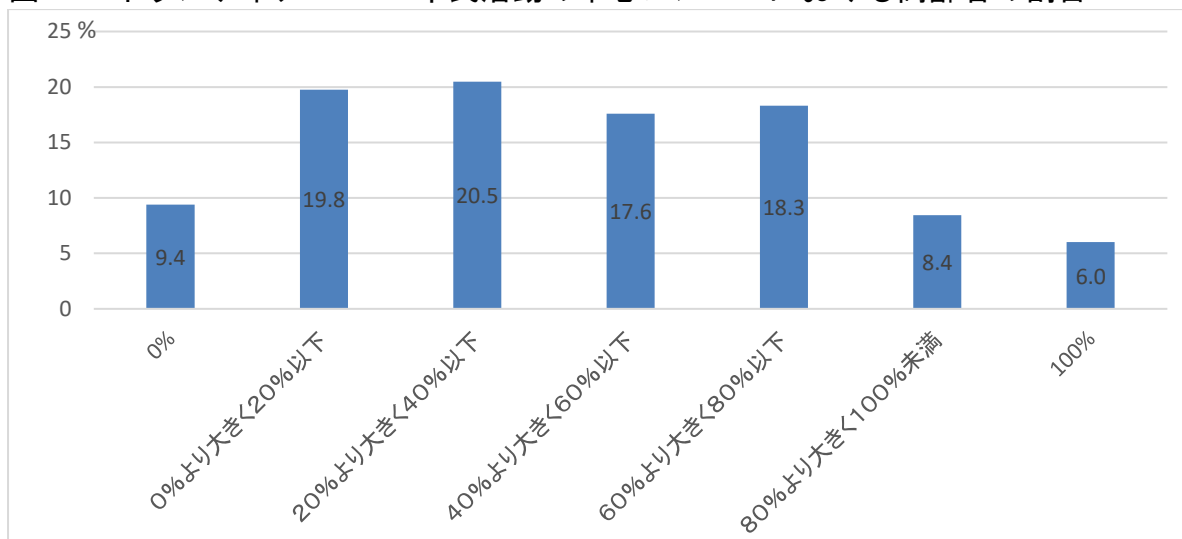
参加しているボランティア・NPO・市民活動の中心となっているメンバーにおける女性の割合を聞いたところ、「40%より大きく60%以下」が最も多く28.9%であった。次いで、「20%より大きく40%以下」(21.9%)、「0%より大きく20%以下」(14.0%)が続いた。男女ほぼ半数の場合が最も多い(図15)。

図15 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける女性の割合



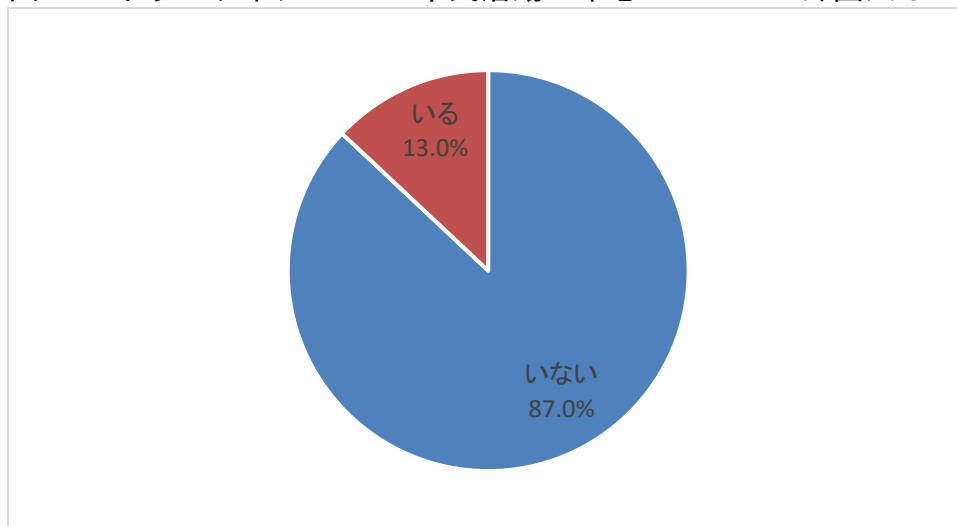
参加しているボランティア・NPO・市民活動の中心となっているメンバーにおける65歳以上の高齢者の割合を聞いたところ、「20%より大きく40%以下」は20.5%、「0%より大きく20%以下」は19.8%、「60%より大きく80%以下」は18.3%、「40%より大きく60%以下」は17.6%と、0%から80%まで4つに分けた割合区分全てで約2割となり、突出して多い割合区分はなかった（図16）。

図16 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける高齢者の割合



参加しているボランティア・NPO・市民活動の中心となっているメンバーに外国人はいるかどうか聞いたところ、「外国人がいない」が87.0%、「外国人がいる」が13.0%と「外国人がいない」が大半を占めた（図17）。外国人がいる場合の外国人の人数の平均は4.5人であった。

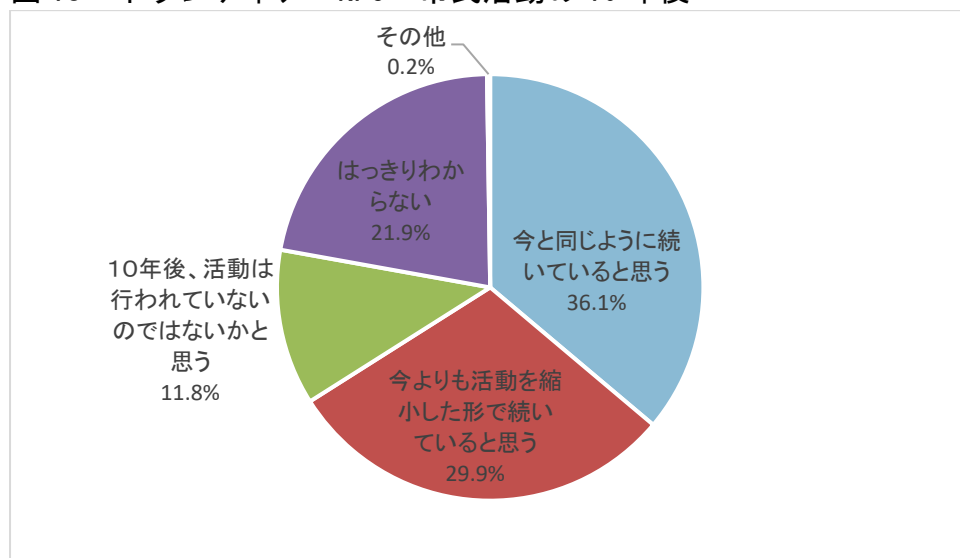
図17 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに外国人はいるか



(3) ボランティア・NPO・市民活動の持続性とダイバーシティ

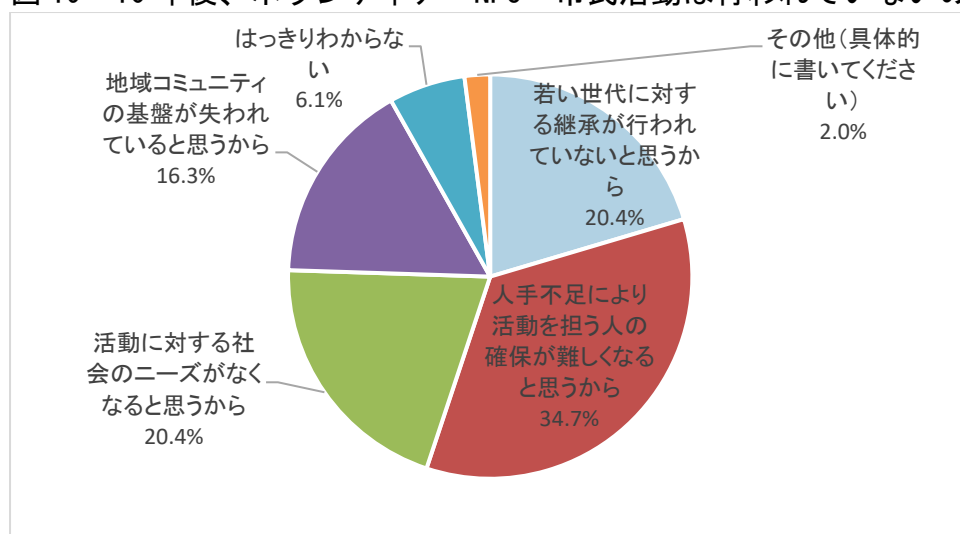
参加しているボランティア・NPO・市民活動は10年後どのようなになっていると思いますかと聞いたところ、「今と同じように続いていると思う」との回答が36.1%と最多を占めた。、「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」(29.9%)、「はっきりわからない」(21.9%)、「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」(11.8%)が続いた。(図18)

図18 ボランティア・NPO・市民活動の10年後



「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人にその理由として最も大きいと思うものを選んでもらったところ、「人手不足により活動を担う人の確保が難しくなると思うから」が34.7%と最も多かった。「若い世代に対する継承が行われていないと思うから」(20.4%)、「活動に対する社会のニーズがなくなると思うから」(20.4%)が同じ割合で続き、次いで、「地域コミュニティの基盤が失われていると思うから」(16.3%)が続いた(図19)。

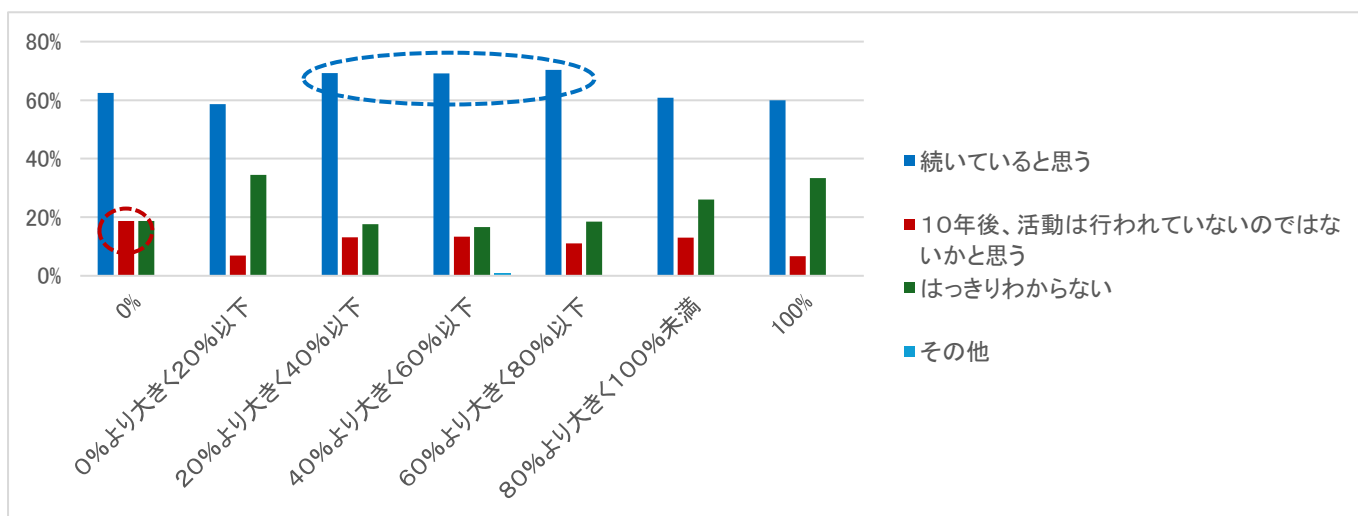
図19 10年後、ボランティア・NPO・市民活動は行われていないのではないかと思います理由



ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける女性の割合ごとに、「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、「0%」で18.8%と最も多く、次いで「40%より大きく60%以下」(13.3%)、「20%より大きく40%以下」(13.2%)が続いた。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける女性の割合ごとに、「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「60%より大きく80%以下」

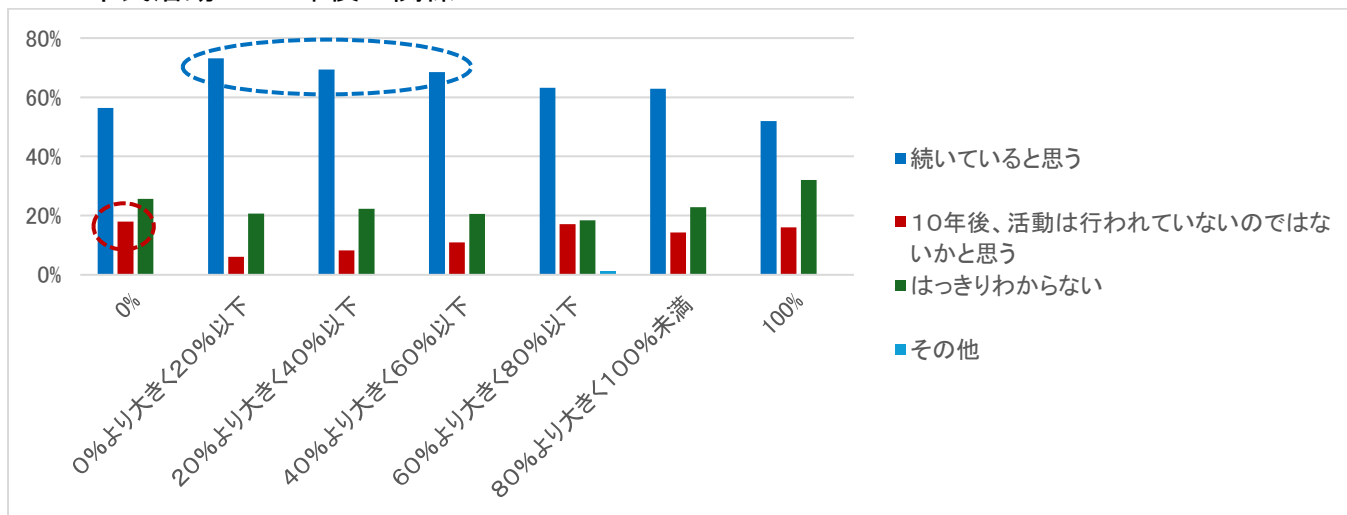
(70.4%)、「20%より大きく40%以下」(69.2%)、「40%より大きく60%以下」(69.2%)が約7割と多かった。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに女性がいない場合に活動の持続性に対する懸念を抱いている人が最も多い(図20)。

図20 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける女性の割合とボランティア・NPO・市民活動の10年後の関係



ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける高齢者の割合ごとに、「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、「0%」で17.9%と最も多く、次いで「60%より大きく80%以下」(17.1%)、「100%」(16.0%)が続いた。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける高齢者の割合ごとに、「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「0%より大きく20%以下」(73.2%)、「20%より大きく40%以下」(69.4%)、「40%より大きく60%以下」(68.5%)が約7割と多かった。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに高齢者がいない場合に活動の持続性に懸念を抱いている人が最も多い(図21)。

図21 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける高齢者の割合とボランティア・NPO・市民活動の10年後の関係



ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける外国人の有無と「10年後、活動は行われていないのではないかと思います」と答えた人の割合をみると、「外国人がいる」(13.0%)、「外国人がいない」(11.6%)とほぼ同じ割合であった。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける外国人の有無と「今と同じように続いていると思う」と「今よりも活動を縮小した形で続いていると思う」を合わせた「続いていると思う」と答えた人の割合をみると、「外国人がいる」が77.8%、「外国人がいない」が64.3%と、外国人がいる方が多かった。ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーに外国人がいる場合の方が、活動の持続性に安心感を持っている人が多い(図22)。

図22 ボランティア・NPO・市民活動の中心メンバーにおける外国人の有無とボランティア・NPO・市民活動の10年後の関係

